



横穴群は
こちらです

今月のリポーターは、
倉本光さんです。

中央支所レポート 13 合志発見!!



5年未満の職員が、地域や農業、農協について興味・疑問・不思議など「何これ?」と思ったことをレポートします。

[自己紹介]

入組2年目。支所総務係を担当。熊本市出身です。好きな食べ物は寿司で、「寿司じじや」がおススメです!趣味は読書で、おススメは「少年陰陽師」著・結城光流。ただいまコミカライズ中!今年目標は、挑戦と勉強です。たまに通る道で気になっていた横穴を調べてみました。



豊岡宮本横穴群

古墳時代後期(約1500年前)の遺跡です。平成15年に、正面を流れている塩浸川のけ崩れ防止工事の際に発見され、発掘調査の結果、未盗掘の横穴12基が確認されました。11号墓からは9体分の人骨が出土し、追葬された痕跡があり、9号墓からも改葬された痕跡が確認されました。7号墓は、工事の際に横穴が削り取られてしまったものの、結果として横穴内部の構造が分かりやすくなり、幅10cm程の「U字」状の工具で壁面を加工した跡がはっきりわかるほど状態が良い横穴墓です。現在、この横穴群は、2・3・7号墓が公開されています。興味のある方はぜひ見学してみてください。

出土された副葬品には、轡や鉄鎌、刀子といった馬具や武具、金メッキで加工された金環(耳飾りか)や勾玉・管玉・切子玉、イモガイ製の貝輪等が出土しており、合志市歴史資料館にて展示されています。面白いことにこの貝輪に使用されたイモガイは、なんと奄美

諸島以南産なんです。また、沖縄諸島ではイモガイを大量に加工していたと思われる遺跡が発見されており、当時の沖縄・九州間の交易の様子や、また集落間での交易等の繋がりが活発だったのだろうと想像できますね。行商のようなことをしていた人々もいたのだろう、と考えるととてもわくわくします!また、まるでビーズで作られたかのように小さな石の中心を開けた、腕輪と思われる装飾品や六角形の水晶体とみられる切子玉、穴の小さな勾玉も見どころです。現代の技術で作られた道具や工具もない約1500年前の技術で、あんなに細かい作業をしていたのかと思うと、畏敬の念を抱きます。

*横穴群の正面にある塩浸川は、ホテルが舞うことでも有名です。今年は数年ぶりにホテルまつりが開催されました。古代の人たちも同じ光景を眺めていたのかもしれないと考えたらロマンチックですね!

*昔から古代の歴史を調べるのは好きでしたので、今回のレポートは私にとっても大変勉強になる時間でした!この調査をきっかけに合志市には他にも多くの遺跡があることも知りました。次は、この横穴墓の近所さんの木瀬遺跡を調べていこうかなと考えています(笑)。では、次の機会を楽しみにしております!



合志市歴史資料館に展示される出土品の一部です。私が気になった装飾品です。



金環(金の耳飾り)

イモガイの腕輪

切子玉

まが玉

耳環と腕輪

管玉

小さな穴があいているよ

箱式石棺 石立遺跡・迫原遺跡



合志市役所教育委員会の米村さんに話を聞きました。



ヴィーブルにある石棺

弥生~奈良・平安時代の遺跡から発見された石棺です。石立遺跡の石棺は盗掘にあい何も残されていませんでしたが、迫原遺跡の石棺からは2体の人骨と刀が発見されています。遺跡の他の場所からは土器や装飾品等、馬具だけでなく一緒に馬の骨も発見されたそうです。石棺は発見場所から移動されてヴィーブル敷地内に展示されており、自由に見学できます。

*日本で馬の飼育が定着したとされているのは、古墳時代中期。それ以前に日本に馬は存在せず、大陸から朝鮮半島を経由してやってきた説が有力とのこと(諸説あり)。馬は大変貴重で、飼育頭数=富や権力の象徴だったともいいます。そんな馬が出土されていた、ということで非常に驚きました。